

第8回（仮称）下井草まちづくりラボ【令和7年10月25日（土）】

テーマ：駅前広場・交通結節点のあり方

日本大学理工学部土木工学科の関文夫教授から駅前広場に関するミニ講義を受け、広場における「交通空間」と「憩いの空間」それぞれの役割について理解を深めました。

その後、模型や地図を用いて駅前広場に求める機能等について班ごとにグループワークを行いました。

【駅前広場の考え方についての講義資料（関教授講義資料）】

駅まち再構築

駅とまちをつなぐ動線に沿った都市機能の誘導

都市開発と連携した交通結節機能の強化による都市機能の充実

周辺街区と連携した都市機能強化や空間の活用イメージ

まち全体を良くするためには、近年の社会情勢を踏まえ、多様な機能を議論する必要があります。駅、駅前広場、自由通路、道路といった交通結節機能に関する施設を個々に考えるのではなく、市街地と連続する『駅まち空間』として一体的な捉え、柔軟な発想で交通結節点の空間整備、機能配置を検討する視点が必要がある。

引用 駅まち再構築事例集 国土交通省都市局街路交通施設課

①

駅まち再構築

交通結節機能

- ・車・人・モノの流れのネットワークをつくる（交通ネットワーク、歩行動線、バリアフリー）
- ・まちの拡張の方向やコンパクト化を考える

市街地拠点機能

- ・駅前広場を中心としたにぎわいの拠点づくり（広場、交通プール、公共施設）
- ・休憩施設、隙間をつくる（まちのサイズ、まちの特徴、まちの居場所）

景観機能

- ・駅を中心とした旧早稲田通から景観（斜めに走る旧早稲田通だから眺められる景観）
- ・豊かな緑と生産緑地との関係

交流機能

- ・区民の交流の場としての機能（公民館、図書館、出張所、大広間等）

防災機能

- ・災害時の避難所としての機能（大広間、キッチン、災害トイレ）

サービス機能

- ・商業施設の誘致（スーパー、銀行、医療相談他）
- ・不動産の誘致（大規模開発計画）
- ⇒大きく変わろうとするチャンス

②

日本のロータリーは時計回り

車のハンドルが右にあることから、ロータリー、ラウンドアバウトは、時計廻りになります。

下井草駅周辺の旧早稲田通りの一方通行の方向に大きく関与
○北へ向かう一方通行
×南へ向かう一方通行

③

広場のデザインの考え方

[駅前広場]

- ・バスプールの形状×駅前広場の形状
- ⇒バスプールが複雑な形状となると目立つので注意
- ・駅・駅舎（建築）・広場は、『まちの顔』『まちの印象』になるので大切
- ・本来『駅前広場』は、人と人が出会う場所、交流の場であること

[広場の考え方]

- ・駅を出た時に見えるもの（第一印象）
- ・各道路からの駅がどのように見えるのかを考える（駅のイメージ）
- ・まちの中での位置づけを考える（駅の価値）
- ⇒人の流れ、使い勝手、集約力
- ・木陰とベンチの関係を考える（休憩スペース）
- ⇒木陰は北側、樹種（落葉、常緑）、下井草らしさ（樹種）
- ・堅い舗装（ILB、平板、レンガ等） 乗り物OK
- ・柔らかい地面（芝生、草地、土等） 足元の悪い人NG、子供OK、乗り物NGのメリハリが必要

④

【駅前広場のグループワーク結果①】

1班



「憩いの広場」は駅に直結し、「交通広場」は駅南方に離して整備する。駅から「交通広場」に至る旧早稲田通りを拡幅し、安全な歩行者空間を確保する。

2班



バス停は現状の位置とし、駅舎の改修を通じて憩いの広場を整備する。ベンチや木陰があり、休憩できる空間や遊具などがあり、小さなイベントを実施できる空間とする。

3班



北側に交通機能を集め、歩行者の安全性と両立するためにコミュニティ道路とする。南側は駅前広場敷地を活用して、イベントを商店街と一体的に実施できる空間とする。

4班



屋根のある大きめの広場を設け、マルシェや待ち合わせ、お祭りや遊び場の空間とする。北側をバスベイやタクシーベイ、一般車両停車ゾーンとする。

5班



中央に誰でも使える憩いの広場を設け、ちょっと休め、ちょっと遊べる空間とする。停車したバスがまちに対して壁にならないように、駅とまちがオープンにつながる広場空間とする。